

みんなで考える、
みんなが主役になる、
みんなの新しい未来をつくる、

かんおんじ 道の駅新聞

発行人：観音寺市政策部プロジェクト推進課
発行日：令和7年（2025年）3月31日
文構成：株式会社イチバンセン



新しい道の駅は「あなたの未来」です



たくさんの市民の皆さんにお集まり頂きました。

観音寺市では、令和10年度（2028年度）中の新しい「道の駅」かんおんじ（仮称）の開業をめざして、基本計画を策定しました。【詳しくは市のホームページ、パンフレットをご覧ください】

「基本計画」とは、敷地や交通計画、大まかな機能や規模、概算事業費が定められたものです。敷地面積約 38,000 m²で建物延床面積が約 3,500 m²ですから、建物よりも駐車場や広場・公園のほうが圧倒的に広い。建物の延床面積は、道の駅「滝宮」（綾川町）の約 2,600 m²よりも広く、かつて存在した観音寺サティの約 14,500 m²よりはコンパクトですから、大型商業施設とは役割が異なることがわかります。

新しい「道の駅」の土地や建物の所有は観音寺市ですが、まもなく民間の運営事業者が選定され、その後に建物や広場の具体的な設計作業に入ります。設計段階から地元の民間企業が有する専門知識や経営能力を反映させるため、指定管理方式・EOI (Early Operator Involvement) 方式という最新の「官民連携」が採用されています。さらに、事業をより成功させるため、議論の質を高めて、より多くの市民に関心を持って頂き、「道の駅の自分ごと化」を狙って、今回のワークショップが実施されました。行政や事業者だけでは観音寺市の未来は作れません。

ワークショップは3月8日土曜日夜に出品事業者向け、9日日曜日の昼間に一般市民向けに市内で実施されました。右図はその場で参加者から寄せられた意見をほぼそのまま記載し、大きな文字は同様の意見が多かったもの、赤い文字は司会者の川西が客観的観点から発言した内容です。

期待すること、心配することを聞いたところ、心配よりも期待の数が圧倒的に上回っています。もちろん、心配の声について、観音寺市や運営事業者は今後しっかりと取り組み説明を果たす必要があります。

出品事業者つまり市内の農業・漁業加工品等の生産者の方々から、道の駅に対して「対話」「コミュニティ」の場が期待されている声が大変多いことが判りました。市民からも多く寄せられています。インターネットやSNSでの情報共有が当たり前の時代に、対面・リアルでの対話やコミュニケーションが求められているようです。つまり、道の駅では単なる販売拠点にとどまらず、対話・体験を通じて観音寺市の魅力を利用者と生産者の双方向に伝え合う機能が必要です。販売員らの高いコミュニケーション能力や運営事業者の対話姿勢は必須と言えます。

道の駅ではトイレ等は原則として24時間開放になるため、夜間の治安維持に対する不安のご指摘がありました。

みなさんに聞きました

期待する点

四国4県からの集客
観音寺の知名度アップ
西讃地域の盛り上がり
街の賑わいが戻ること

地元の事業者が潤う
生産者の所得向上
雇用人口の拡大 販路拡大
高齢者の再雇用
売上アップ

夜間の街バル
夜でも食事ができる
夜でも楽しめるイベント

観音寺のファンが増える
観音寺への移住者が増える
観音寺の良さが解って貰える

人口減少の歯止め
防災拠点
高速道路の途中下車対応

観音寺市の交流人口の増加
インバウンド客の増加

どこで誰が作ったのか分かる売り場
旬・季節が見える売り場

夜間の治安維持
フードコートのマナー
人が増えると治安が悪化
溜まり場になるのでは

夜間の治安維持
フードコートのマナー
人が増えると治安が悪化
溜まり場になるのでは

道の駅をきっかけに農家になる人が増える

農業の希望の星になる？

そもそも農家の数が減少している
農業就労人口の減少で生産者は十分に集まるのか

生産者同士のコミュニティの場
生産者同士の情報交換・技術向上の場
生産者と消費者の対話の場
住民同士のコミュニティの場
生産者～住民の横のつながりが生まれる場
市民が発表できる場

リアルな交流・対話の場の
ニーズは非常に高い！

店員の人間力
コミュニケーション

道の駅の計画が市民には知られていない
広い駐車場での事故・トラブル
駐車場と建物が遠い
ヒートアイランド現象

道の駅だけに一極集中するのでは
市全体としての賑わいはどうなるのか

農業体験の受付窓口
漁業体験の受付窓口
うどん体験の受付窓口
地域発着ツアー受付窓口
移住希望者の相談窓口
一の宮海岸との連携
近隣神社との連携

子育て世代を大切にしたい
地域の3世代がつながれる空間
そのためのワークショップ実施

観音寺の美味しいもの
観音寺市内のみならず周辺市町からも
家庭菜園で採れた少量の野菜も売りたい
安全安心のオーガニック野菜を売りたい
障がい者が生産した商品も売りたい

木陰
足湯

お年寄りから子どもまで満足できる施設
若い人たちが集まれる場所
乳児・子ども向けトイレ

あなぶきアリーナ香川に負けない施設
常に行きたいと思える場所になって
シビックプライドを高める場所に

大手コーヒーチェーン店のような雰囲気
お弁当が食べられる公園のような雰囲気
大手福祉グループのような温泉・食事処
各金融機関のATM

ちようさ会館のリニューアル
リモートワーク・マドワーカーの居場所
賑やかな空間と静かな空間との棲み分け分離

カーボンニュートラルを全面に打ち出す

課題点

周辺道路の交通渋滞
交通アクセスの悪さ
国道からのアプローチ
病院への緊急車両は大丈夫か

わざわざ行ってみたい施設か
近隣の道の駅との差別化・連携
近隣の民間商業施設との差別化
近隣の観光地との連携

市の財政や借金増加は大丈夫か
本当に利益が安定的に見込めるのか
維持管理費は大丈夫か
商品・食材は足りるのか
すぐに売り切れてしまうのでは

キラーコンテンツはあるか
リピーターは生まれるか

最初だけお客さんが来て、徐々に減少するのは
イベントに持続可能性はあるか

道の駅だけに一極集中するのでは
市全体としての賑わいはどうなるのか

売子子の質・コミュニケーション能力
出店者の不安を解消する窓口はあるか

南海トラフ地震の津波対策

ファーマーズマーケット
市民が自由に使える広場
マルシェやイベント実施
婚活
スポーツが楽しめる施設
子どもが遊べる空間
バン屋
ようふく
したぎ
ぼうし
どうぶつ
100円しょっぷ
ラーメン
寿司
あまぎ

良い運営事業者によって欲しい

スターバックス等の有名チェーン店
予備線の電車が見える展望台

バリアフリー対応
知的・身体障がい者も過ごしやすい

100円しょっぷ
ラーメン
寿司
あまぎ

屋台感覚で食べ歩きができる
食べ物が美味しいこと

運営事業者は市民の声を
聞く必要がありそう

治安・マナーの不安についても、店員や利用者のコミュニケーション能力が多くを占める、という事例（宮崎県内の図書館等）をご紹介しました。マナー厳守を呼び掛けるポスターでは何も解決しません。

我が国の農業は生産者の後継者問題に加えて、諸経費の大幅な上昇など大きな岐路を迎えています。十分な商品が揃うのか？という不安の声も寄せられましたが、道の駅をきっかけに農家になる人が増えることに期待する声は印象的でした。観音寺市の野菜は香川県内でも高品質である声は多く、ファン醸成のための空間が期待されています。

道の駅だけが賑わうのではなく、観音寺市全体にその効果が広がることも期待されています。大手量販店では真似が出来ない、家庭菜園の少量でも高品質な野菜販売に対応できることは大事です。

大手コーヒーチェーン店の出店を期待する声も多数寄せられていますが、若い世代の定住人口が多い街は、チェーン店が立ち並ぶ街ではなく、若い経営者による個人店が多い街です。この事例（愛知県）も会場ではご紹介しました。市や運営事業者は今後も市民ニーズに真摯に向き合い、丁寧な説明をしてゆく必要があります。（文・川西 康之）

私は を売ります！ 観音寺の な物語を知って欲しい！

令和7年（2025年）3月8日土曜日出品事業者向けに実施したワークショップにおいて、指定用紙に記載頂いた内容をそのまま記載。固有名称や個人名、類似の意見は一部省略しています。分かり難い表現はオリジナル性を尊重しながら補訂しています。

道の駅に出品を希望・興味がある方々に、道の駅でどんな商品売りたいか？どんな物語があるのか？を聞いてみました。様々な商品がインターネットで買える時代において、観音寺市にしかない価値、その売り手の家族や人としての物語や歴史をお客様に伝えることはとても大事です。その物語を聞いてみました。道の駅の運営事業者は、観音寺市の生産者・出品希望者の声や物語をしっかりと聞くことが必要だと感じました。

ロメインレタス

を売りたい！

若い農家が集まって組合を作り、美味しいロメインレタスを栽培している。農協だけでなく販路を開拓し、組合員も増加中。この組合で小さな産直市も営業中。

こだわり野菜

を売りたい！

土作りにこだわった野菜を栽培している。カタチや色が悪い野菜も加工・調理して、無駄にしない。私は野菜ソムリエで元八百屋。その私が惚れ込んだ野菜（味と香り）は、観音寺市など西讃地域の農家が栽培していた。美味しい野菜を栽培する農家が多い観音寺市に今、私は移住して農業をしている。味にこだわる料理人や主婦の方々に買って頂きたい！

レタスや玉ねぎ

を売りたい！

観音寺市は災害は少ないが、水不足に悩んできた。豊浜・大野原の豊南地区は、野菜の味が濃くて美味しいことで有名だ。鮮度も長持ちする傾向があり、冷蔵庫でも一週間以上長持ちする。

観音寺伝統野菜

を売りたい！

観音寺市内で古来より栽培されてきた伝統野菜を味わって欲しい。この街が培ってきたDNAで、先代から脈々と種が受け継がれている。



伝統の乾麺

を売りたい！

明治35年頃から「金栄丸」という船で廻船業を起業し、そうめんの製造販売を始めました。香川県で初めて電動モーターを購入し、多くの家庭に製麺をお届けしたことが会社設立のきっかけでした。それから100年以上、今現在では、うどん、冷や麦、日本そば、中華そば等の乾麺を製造販売しています。

讃岐うどんの包んだ餃子

（登録商標）を売りたい！

讃岐うどんの生地を伸ばして作った餃子の皮と、こだわりの餡で包んだ「讃岐うどんで包んだ餃子（冷凍）」を販売している。元は母親の好きが高じて始めた。当初は観音寺市内の製麺所で餃子の皮を作ってもらっていたが、そこが閉店することになり、弟子入りして生地の作り方から習得し、現在はすべて自家製。

いぶし瓦

を知って欲しい！

いぶし瓦とは、手作りで一枚一枚つくっている日本古来の瓦のこと。私は観音寺市の瓦屋さんに嫁いで来た。私は趣味で多肉植物を育てているが、瓦と同じ粘土で植木鉢や小物を焼けることを知った。いぶし瓦は手間がかかり、とても貴重なもの。県内で瓦を製造する窯は稀有で、我が家の窯を扱えるのは義父のみ。観音寺市にある立派な屋根や町並みを支える、いぶし瓦を知って欲しい。

伊吹いりこ

（煮干し）を売りたい！

伊吹島のいりこは商標登録されており、漁師さん自ら自家生産している。いりこを使用したお菓子も大手通販サイトでネット販売しており、高評価を頂いている。化学調味料は使用していない。道の駅でも売ってみたい。

多肉植物 コケ玉

を売りたい！

若い人たちに買って欲しい。

シキビ

を売りたい！

観音寺市内でシキビ等を栽培しており、市内の産直市場には長らく出荷している。孫が後継者になっており、道の駅でも販売したい。

香川県産の商品

を売りたい！

観音寺市で地域商社を設立し、香川県内の様々な商品を取り扱い、県内の道の駅・キオスク・駅ビルに納品している。高屋神社の天空の鳥居にある自動販売機も運営している。

お肉セット

を売りたい！

「どの肉をどれだけ買えば良いかわからない」お客様に、喜んで頂けるセットを売る。内容が分かる明細を添えて、リピーター醸成につなげる。先代の「プライドは捨てなさい、信念を持ちなさい」の言葉を胸に仕事しています。

ヴィーガンカフェ

を出店したい！

みんなに元気になって欲しい。食品添加物の使用が増えて、アレルギー患者も増加している。安全で美味しく、身体に優しい食品が必要だ。健康に気を使っている方々に、もっともっと健康で元気で美しくなって欲しいと願っている。

参考事例

ワークショップ会場で出された意見・アイデア等に対して、参考になる事例を会場ではご紹介しました。その一部をご紹介します。



宮崎県都城市
市立図書館

都城市立図書館は、2018年に旧デパートの空き店舗を改修してオープンした。豪華な吹き抜け空間やゆったりした閲覧室は贅沢だが、古い建物の構造をそのまま活かしている。

この図書館を運営管理している館長らにヒアリングをしたところ、多くの市民に本との出会い・読書を楽しんで頂くために、館内サインやディスプレイの工夫のみならず、スタッフが積極的にマナーが悪い人たちに対して「注意する」ことを心掛けていたとのこと。理由はここは「公共の空間だから」。マナー向上のポイントは注意書きポスターではなく、人間のコミュニケーションに尽きる。近年、図書館の運営を大手民間企業に運営委託する事例が多いが、とくに飲食系チェーン店が入居している場合は店員がマナーが悪い者に対して注意できない、マナー悪化の事例が散見されていた。

都城市の毅然とした態度は立派で素晴らしく、観音寺市の道の駅とくにフードコートでも同様の取り組み・姿勢が参考になる。



奈良県川西町
結崎 Station&Park

大都会以外の地域で、街に賑わいが欲しい、と願う市民も行政も多い。しかしながら、人々の賑わいは一夜にして成らず、建物が出来たから賑わいが生まれるわけではない。まずは課題を整理して、目標を定めて、建物を計画しながら、人づくりも同時に進めることが大事だ。人づくりには、様々な人々から様々な意見を集めて議論する手間と時間を惜しんではならない。

奈良県川西町は、典型的なベッドタウンでありながら、人口減少が続いている。近隣には似たような市町村が同じような課題を抱えている。わざわざ住んでみたくなる町を目指して、駅前に賑わいを生むための議論が始まって、最終的に駅にシェアキッチンが生まれるまでに10年が掛かった。

この期間に住民ニーズが整理整頓されて共有され、「なんでも行政任せにしない」という住民と行政の相互で理解が進み、「この町に住み続けたい」という目的が共有され、「自分から面白い取り組みをする」という自分ごと化が深度化した。